令和４年度：特別養護老人ホーム瑞寿苑事業報告書

1.　利用者処遇の充実

ユニットケアの基本理念でもある暮らしの継続を念頭に、再度ユニットケアの基本に戻り、入居者一人一人の意思及び人格を尊重しながら、地域の中での暮らしが継続できるような支援に努めました。また今年度においても、新型コロナウイルスの影響にて、事業計画に沿って外出行事を思うように実施することができなかったため、施設内で季節を感じ、満足していただけるように各ユニットで工夫を凝らして、食事面や手作りおやつを中心に力を入れて取り組みを行いました。看取ケアにおいては、各職種で連携を図り、最期までその人らしさを大切にし、身体的・精神的苦痛をできるだけ緩和し、人としての尊厳に十分に配慮しながら寄り添ったケアに努めました。

2.　地域交流

新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、近隣の小学校にて４年生を対象として地域の福祉施設をテーマに講師派遣を行い、地域福祉の向上に努めました。また地域における福祉拠点の一つとして、介護福祉士や介護職員初任者研修等の資格取得のための実習生の受け入れにおいては、その都度新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、最小人数での受け入れを行いました。その他に地域における社会貢献活動の一環として、本来のサービスに支障がない範囲で車椅子や屋外用段差解消スロープ、介護用ベッドなどの介護備品の貸し出しを行いました。

3.　職員の質の向上

新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、今年度においても新型コロナウイルスにおける社会の情勢を鑑み、webによるオンライン研修へ参加をいたしました。また専門的な知識や技術など職員の資質向上を図るため、外部講師を招いて少人数での勉強会の機会を毎月定期的に作り、事故防止（リスクマネジメント）や身体拘束廃止・虐待防止、認知症への理解や対応など、多様化するニーズに的確に対応できるよう人材育成に努めました。その他に職員の職場の定着を目指し、職員一人一人の意見や想いが反映されるよう、定期的に職員面談を実施いたしました。

4.　安全な生活環境の提供

入居者の安全確保において、職員が迅速に対応できるよう、年４回の防災訓練に加え、緊急連絡網運用訓練や非常食提供訓練、非常用小型発電機の使い方を含む大震災を想定した初動時の震災訓練を実施いたしました。また有事の際に事業を中断させないために職員が優先的に行うべきことを定めた災害時における事業継続計画（BCP）の見直しや飲料水、食糧などの備蓄品の管理を行いました。なお、次年度においては新型コロナウイルス対応における感染症リスクの特徴を踏まえ、感染発生段階ごとの対応方針における考え方や施設内での感染対策（ゾーニング）について感染症における事業継続計画（BCP）の再検討を行い、全職員対象に説明会や実際に感染対策（ゾーニング）を含むシミュレーション訓練を計画的に実施して、有事の際に備えていきたいと思います。